



# ふれあい

412号

2026年7月発行

医療法人 百花会  
上野公園病院

大分県日田市大字高瀬2226-1

電話 0973-22-7723

## 抗認知症薬について

薬剤師 泉 一恵

認知症とは、一度正常に発達した知的機能が、後天的な脳の器質障害によって持続的に低下し日常生活・社会生活に支障をきたす状態であることは、皆さんもご存じとは思いますが。

認知症の必須条件は、記憶障害・実行機能障害・失行・失語など、記憶以外の認知機能障害が少なくとも一つあること、認知機能が病前の機能水準から著しく低下することといわれています。認知症の6割は、アルツハイマー型認知症が占めていて、認知機能障害として、記憶障害、遂行機能障害、視空間認知障害、言語障害、人格変化・行動障害などがあります。抑うつ・幻覚・妄想などの精神症状と徘徊・暴言などの問題行動は、認知症の行動・心理症状（BPSD）と呼ばれています。治療戦略としては、認知機能障害の改善・

BPSDの改善のほかに病変の進行の抑制があります。

＜アルツハイマー型認知症治療薬（AD）として＞

コリンエステラーゼ阻害薬

（ドネペジル・ガランタミン・リバスチグミンテープなど）

➡貼付剤が発売され、副作用の軽減等期待したいところです

AD患者の認知機能・日常の生活動作（ADL）・行動障害の改善及び進行抑制作用があります。副作用としては、食欲不振・悪心・嘔吐・下痢などの消化器症状が多いが、胃薬等服用することで、軽減できる場合もあります。

NMDA受容体拮抗薬

（メマンチンOD）

中等度～重症ADの認知や日常の生活動作（ADL）、患者の病状や体調の全体像を総合的に判断し改善するといわれています。この薬剤は、腎機能の状態によって、投与量がちがってきます。当院の薬局では、投与量を計算でおおよその投与量を導き出す作業もおこなっています。

それ以外としては認知症高齢者での多剤併用は、避けたほうがよいとされています。

また、BPSDは介護指導や療養環境などの非薬物療法を優先とします。幻覚・妄想・焦燥・攻撃性のあるBPSDには、抗認知症薬や抑肝散・気分安定化薬・抗精神病薬を用いることがあります。

住み慣れた場所で穏やかに、少しでも長く過ごせるように、患者様の一人一人に合ったお薬や生活環境を整えることが重要になってくるのではないかと思います。

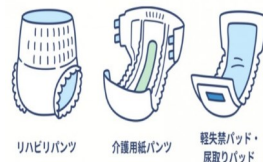
## ～お知らせ～

世界的な原油（ナフサ）価格の高騰や物流コストの上昇が続いております。これに伴い、紙オムツの主要原材料である高分子吸収体や不織布などの資材価格が大幅に値上がりしている現状です。業者の価格改定に伴い、当院でも、オムツ類の値上げを実施すべく、下記金額に変更させて頂きますことを、ご理解いただければ幸いです。

2026/7/1～

32円/枚～181円/枚 ➡ 40円/枚～220円/枚（税込み）

（患者様の使用量に応じて、その金額を自費で徴収しております。）



## ～猛暑に備える～

### 西2病棟 師長 羽野 和美

梅雨が明けると、次にやってくるのが猛暑。外仕事、田畑での農作業、庭いじりなどされる方も多いかと思います。猛暑の中、気を付けないといけないのが熱中症です。そのサインには、めまい・立ちくらみ・頭痛・強いだるさ・吐き気・大量の汗、または、汗が出なくなる等があります。

・熱中症対策として・

- ①暑い時間帯を避け、早朝や夕方の涼しい時間帯に作業をする
- ②こまめに休憩を取り、30分に一回程度、日陰や室内で休む「まだ大丈夫と思っても休憩することが大事」
- ③水分・塩分を補給する、喉が渇く前に水分を摂る
- ④帽子や服装を工夫する（つばの広い帽子、通気性の良い服、首元を冷やすタオルや冷却グッズ）
- ⑤一人で長時間作業をしない、家族や近所の人に声をかけておく、携帯電話を持っておく、体調が悪くなったらすぐに作業を中止する。

などありますので、参考にしていいただければと思います。猛暑に備え、どうかご自愛下さい。



医療法人百花会 上野公園病院

通所リハビリ ふきのとう  
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス

<http://www.uenokoen-hospital.jp/>

E-mail

[uenokoen-hp@giga.ocn.ne.jp](mailto:uenokoen-hp@giga.ocn.ne.jp)



## 作業療法だより

東1作業療法士 池田 亜弥

梅雨特有のじっとりとした暑さが続いています。病棟からは、外の天気がわかりにくいのか、小雨を見て「晴れているから散歩行こう」と誘ってくださる患者様もいます。またの機会にとお話し、室内での七夕飾り作りをお願いしています。

折り紙を使った作業中、やり取りの中で患者様を混乱させてしまった場面がありました。「何色の紙を使いましょうか」「どれが好きですか？」といった質問は、「何」や「どれ」を具体的に考えるのが難しく、上手く答えられない不安から「もう分からん」と怒りを招いてしまいました。そこで「この二色ならどちらが好きですか？」というように、あまり迷わず選べるような声掛けをしてみました。すると、穏やかな笑顔で「こっちかな」と選択することができました。ご本人が安心して力を発揮できるよう、状況に応じた具体的な声掛けや環境を整えることの大切さを教えられたエピソードです。

